

岡山県矢掛町町並みエリアの景観を活かしたまちづくり

官民連携無電柱化支援事業矢掛地区の取組について

矢掛町 建設課

1. はじめに

矢掛町は、岡山県の南西部に位置し、高梁川水系の支流である小田川流域にひらけ、標高が15メートルから505メートルの比較的ゆるやかな丘陵に囲まれた盆地をなしています。東西12キロメートル、南北15キロメートル、周囲55キロメートル、町域面積は90.62平方キロメートルで、岡山県の総面積の約1.2パーセントにあたります。

町の東西を国道486号と井原鉄道株式会社による井原線が走り、山陽自動車道の笠岡、鴨方、玉島インターチェンジまでの所要時間は20分～30分で交通の利便性に優れています。

年間の平均気温は14.5℃であり、瀬戸内海式気候に属し、温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれています。

人口は約1万4千人で主要産業は自動車部品や紙加工品等の製造業と米、野菜（アスパラ・ネギ等）果物（梨、ブドウ、イチゴ）等の農業です。



2. 歴史的背景とこれまでの取組

矢掛町は、江戸時代には江戸への参勤交代の山陽道 18 番目の宿場町として栄え、町の中心部の町並みエリアには、国の重要文化財に指定されている「旧矢掛本陣石井家住宅」と「旧矢掛脇本陣高草家住宅」がその姿を残しています。同じ宿場に本陣と脇本陣が対で現存し、どちらも国の重要文化財に指定されているのは、全国でも矢掛町が唯一です。毎年 11 月の第 2 日曜日には、「矢掛の宿場まつり大名行列」を開催するなど、当時の面影を残す景観は、重要な観光資源となっています。



旧矢掛本陣石井家住宅



矢掛の宿場まつり大名行列の様子

平成 5 年度には矢掛町街並み景観整備事業補助金交付要綱を制定し、景観整備に必要な建物の修理に補助金を交付するなど、景観の保全、魅力的なまちづくりのため、町並みエリアの景観整備を行ってきました。この事業を進める中で、地元住民からも「どうにか矢掛の町並みエリアの無電柱化が出来ないか」と声があがり、幾度となく無電柱化への検討を行ってきましたが、諸般の事情から実施には至りませんでした。直近では、平成 28 年度にワーキング・グループを立上げ、無電柱化構想検討を実施するなど、無電柱化への道を継続して検討してきました。

3. 無電柱化にむけての現在の取組

上述のように、矢掛町の町並みエリアの無電柱化は地元の悲願であり、この度、社会資本整備総合交付金官民連携無電柱化支援事業として事業採択を受け、平成 30 年度から三か年で無電柱化事業を実施しています。当事業は、道路管理者が電線共同溝を埋設する従来の無電柱化の方法とは異なり、各電線管理者が単独で地中化工事と裏配線工事を実施することになります。このため、従来と比較して工期の短縮が見込まれています。事業実施にあたっては、電線管理者である 6 事業者などを委員とする地区協議会を設立し、実施方法等について検討を進めてきました。当初、無電柱化実施区間として商店街全線である 970m を計画していましたが、協議を進める中で、三年間の実施期間などを考慮し、主要施設である本陣から脇本陣までの区間と、道の駅から町並みエリアまでの計 510m を無電柱化重点区間に設定し、事業実施しています。

無電柱化区間には 25 本の既設電柱があり、それぞれの電線管理者が地中化又は裏配線により無電柱化に取り組んでいます。現在、区間の西側から順次本体管路の埋設工事及び各戸への引き込みが進んでおり、令和 2 年 12 月には全電線管理者の工事が完了する予定です。無電柱化実施にあたって生じる課題については、電線管理者と連携を密にし、早急に対応をしています。また、工事着手前に数回に渡り行った地元説明会に加え、毎月地元住民の方に工事の進捗状況を書面連絡し、事業内容、実施方法や交通規制等の周知を徹底しています。

既設電柱には交通規制標識が設置されているものもあり、電柱撤去後の対応について、当該規制標識の必要性や安全を確保した上での代替え案を、警察や地元住民とともに協議を行い、規制標識の削減にも取り組んでいます。

また、無電柱化区間には電線管理者が所有する電柱以外にも、街路灯、看板、スピーカー等の柱が数多く存在しており、できる限りの無電柱化を目的として町が街路事業として撤去・更新を行う予定とし、地元商店街の協力を得ながら各所有者への説明を行いました。

このように、行政・地元住民・電線管理者が連携して町並みエリアの無電柱化の実現に向けて進んでいます。

【事業概要】

事業路線：町道市街地中央線、町道元町線
 事業延長：L=510 m
 事業年度：平成 30 年度～令和 2 年度
 参画企業：中国電力ネットワーク株式会社、
 西日本電信電話株式会社
 株式会社エネルギー・コミュニケーションズ
 晴れの国岡山農業協同組合
 矢掛放送株式会社、備中西商工会
 対象電柱：25 本

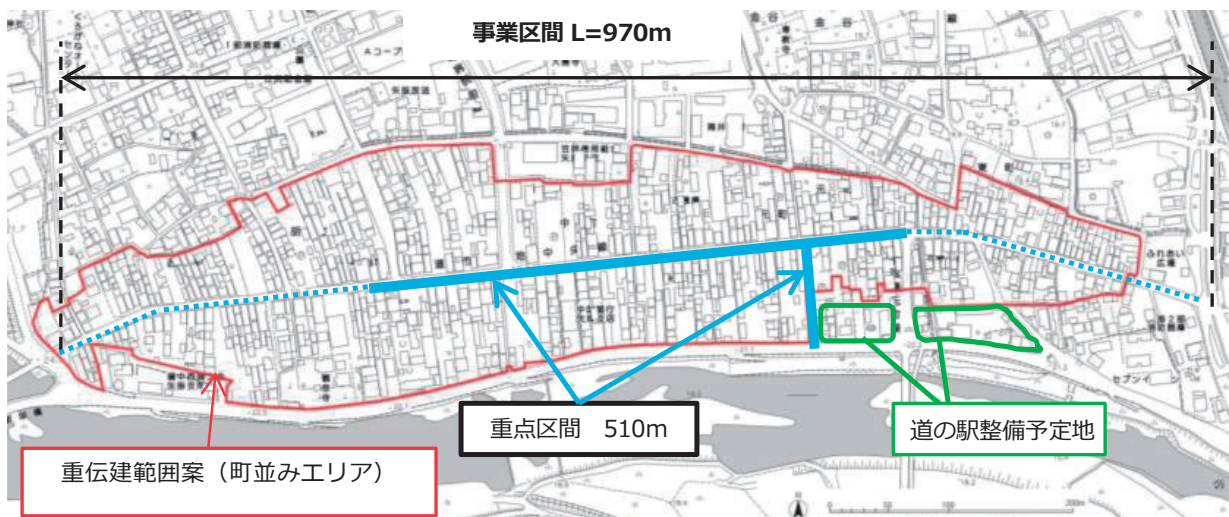


【実施前】



【実施後】

無電柱化のイメージ



4. おわりに

矢掛町では、本陣、脇本陣を含めた素晴らしい町並みエリアの景観を活かした観光地化に向けた取り組みを進めています。平成25年度から町並みエリアの中心部にある古民家3棟を改修し、交流施設「やかげ町家交流館」や宿泊施設「矢掛屋」を整備しました。また、矢掛町を元気にしたい町民等が出資して設立した「株式会社やかげ宿」が中心となり「やかげ夏の行灯まつり・小唄おどり」や「宿場町矢掛の日曜朝市」、「ベッキオ・バンビーノ（クラシックカーツーリング）」の誘致等町並みエリアでのイベントを定期的実施し、観光による賑わいのまちづくりに積極的に取り組んでいます。これらの施策が起爆剤となり、民間での新規創業の動きも活発化しており、店舗や飲食店等も増加しています。

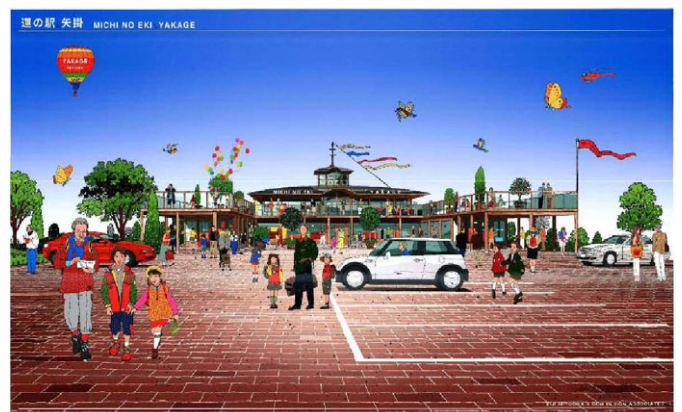
また、令和2年度末には「矢掛まるごと道の駅」をコンセプトに町並みエリアの玄関口として道の駅を開業する予定としています。これは観光客増加による大型車両等の乗り入れの需要に対応するもので、町並みエリアに隣接する国道486号の道路管理者とともに整備を行っています。

併せて、文化庁による「重要伝統的建造物群保存地区」への選定も目指しており、無電柱化事業とともに地元住民の「町並みの景観を残したい」という思いを一つ一つ実現しています。

美しい町並みと活気に満ちた矢掛町へ、ぜひお越しください。



やかげ夏の行灯まつり・小唄おどり



道の駅完成イメージ